

デーヴォ ガイド



2024.3.25-31

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ①お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。(2~3つ)
- ②1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディポジションの分かち合い(なるべく短く)
- ④預言の祈り(主の御心を宣言して祈り)をします。

セル ガイド

- ①祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様があがめます。
- ②互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ディポジションの分かち合いをします。
- ④セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ①この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと?
- ②この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか?(または誉めたいですか?)1つだけ。
- ③聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか?
- ④互いの必要のために祈りましょう。

礼拝メッセージフィードバック

<今日の聖書箇所は…>

①神のみこころは?(信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど)

②どんな思いになりましたか?(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか?(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか?)

④この世にあって何を実践しますか?

25日 月曜

ルカ



意をした。

22:1 さて、過越の祭りと言われる、種なしパンの祭りが近づいていた。

22:2 祭司長、律法学者たちは、イエスを殺すための良い方法を探していた。彼らは民を恐れていたのである。

22:3 ところで、十二人の一人で、イスカリオテと呼ばれるユダに、サタンが入った。

22:4 ユダは行って、祭司長たちや宮の守衛長たちと、どのようにしてイエスを彼らに引き渡すか相談した。

22:5 彼らは喜んで、ユダに金を与える約束をした。

22:6 ユダは承知し、群衆がいなくなるときにイエスを彼らに引き渡そうと機会を狙っていた。

22:7 過越の子羊が屠られる、種なしパンの祭りの日が来た。

22:8 イエスは、「過越の食事ができるように、行って用意をなさい」と言って、ペテロとヨハネを遣わされた。

22:9 彼らがイエスに、「どこに用意しましょうか」と言うと、

22:10 イエスは言われた。「いいですか。都に入ると、水がめを運んでいる人に会います。その人が入る家までついて行きなさい。

22:11 そして、その家の主人に、『弟子たちと一緒に過越の食事をする客間はどこか、と先生があなたに言っております』と言いなさい。

22:12 すると主人は、席が整っている二階の大広間を見せてくれます。そこに用意をなさい。」

22:13 彼らが行ってみると、イエスが言われたとおりであった。それで、彼らは過越の用

ユダに関してはイエス様を裏切った動機が色々に推察されます。聖書では「サタンがはいった」と書かれています。様々な事情や動機などが交錯するのが罪の背景にあります。それが本質なのです。

私たちはサタンに立ち向かいましょう。そのためには、自分自身の力ではできないので、主に明け渡す信仰しかありません。自分で事情や理屈をつけながら主のみこころを拒んでいると、サタンに勝つことはできませんから気をつけましょう。

過ぎ越しの食事は旧約の教えに則ったものですが、イエス様はそれをも大切にしました。イエスさまは律法を廃棄するために来られたのではなく、律法を完成するために来られたからです。イエス様こそが信仰の創始者であり完成者なのです。

神がなさることに矛盾はありません。人間は神様の命令に対して、それは無理だと勝手に思い込むことがあるかもしれませんが、神様は御自身に矛盾のない方です。主に反論するよりも、どのようにしたら従えるかを考えましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



26日 火曜

ルカ

22:39 それからイエスは出て行き、いつものようにオリーブ山に行かれた。弟子たちもイエスに従った。

22:40 いつもの場所に来ると、イエスは彼らに、「誘惑に陥らないように祈っていなさい」と言われた。

22:41 そして、ご自分は弟子たちから離れて、石を投げて届くほどのところに行き、ひざまずいて祈られた。

22:42 「父よ、みこころなら、この杯をわたしから取り去ってください。しかし、わたしの願ひではなく、みこころがなりますように。」

22:43 「すると、御使いが天から現れて、イエスを力づけた。

22:44 イエスは苦しみもだえて、いよいよ切に祈られた。汗が血のしずくのように地に落ちた。」

22:45 イエスが祈り終わって立ち上がり、弟子たちのところに行ってご覧になると、彼らは悲しみの果てに眠り込んでいた。

22:46 そこで、彼らに言われた。「どうして眠っているのか。誘惑に陥らないように、起きて祈っていなさい。」

22:47 イエスがまだ話をしてられるうちに、見よ、群衆がやって来た。十二人の一人で、ユダという者が先頭に立っていた。ユダはイエスに口づけしようとして近づいた。

22:48 しかし、イエスは彼に言われた。「ユダ、あなたは口づけで人の子を裏切るのか。」

22:49 イエスの周りにいた者たちは、事の成り行きを見て、「主よ、剣で切りつけましょ

うか」と言った。

22:50 そして、そのうちの一人が大祭司のしもべに切りかかり、右の耳を切り落とした。

22:51 するとイエスは、「やめなさい。そこまでしなさい」と言われた。そして、耳にさわって彼を癒やされた。

22:52 それからイエスは、押しかけて来た祭司長たち、宮の守衛長たち、長老たちに言われた。「まるで強盗にでも向かうように、剣や棒を持って出て来たのですか。

22:53 わたしが毎日、宮で一緒にいる間、あなたがたはわたしに手をかけませんでした。しかし、今はあなたがたの時、暗闇の力で。」

イエス様は孤独を感じられたでしょう。これほどの恐怖と苦しみに打ち勝つ祈りをなさっていたのに、弟子たちは「眠り込んでいた」のです。確かに人間の肉体は弱いもので、信仰に自信があるような者でも、誘惑に陥ることがあるのです。弱さを克服するには「祈って」いるしかないことを覚えましょう。神の力によって生きる以外ないのです。

イエス様はご自分を捕えようとする者にさえ、「耳にさわって彼を直して」やられました。決心のついた人は心に余裕があるので、優しい愛の人になれるのです。主に従う決心をしましょう。

イエス様のこの落ち着きは、ゲッセマネの園で祈った結果です。祈りは単にお勤めやルーティンワークではありません。生ける神様との生ける交わりです。心を養って、主の思いで生きるために心を定めるような祈りをしましょう。そのような祈りに導かれましょう。



①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



27日 水曜

ルカ

23:13 ピラトは、祭司長たちと議員たち、そして民衆を呼び集め、
23:14 こう言った。「おまえたちはこの人を、民衆を惑わす者として私のところに連れて来た。私がおまえたちの前で取り調べたところ、おまえたちが訴えているような罪は何も見つからなかった。
23:15 ヘロデも同様だった。私たちにこの人を送り返して来たのだから。見なさい。この人は死に値することを何もしていない。
23:16 だから私は、むちで懲らしめたうえで釈放する。」
23:17 【本節欠如】
23:18 しかし彼らは一斉に叫んだ。「その男を殺せ。バラバを釈放しろ。」
23:19 バラバは、都に起こった暴動と人殺しのかどで、牢に入れられていた者であった。
23:20 ピラトはイエスを釈放しようと思って、再び彼らに呼びかけた。
23:21 しかし彼らは、「十字架だ。十字架につけろ」と叫び続けた。
23:22 ピラトは彼らに三度目に言った。「この人がどんな悪いことをしたというのか。彼には、死に値する罪が何も見つからなかった。だから私は、むちで懲らしめたうえで釈放する。」
23:23 けれども、彼らはイエスを十字架につけるように、しつこく大声で要求し続けた。そして、その声がいよいよ強くなっていった。
23:24 それでピラトは、彼らの要求どおりにすることに決めた。
23:25 すなわち、暴動と人殺しのかどで牢に入れられていた男を願いどおりに釈放し、他



方イエスを彼らに引き渡して好きなようにさせた。

正義と真実によって判断されるなら、イエス様は無罪で釈放されるべきでしたが、ピラトは暴動を恐れてイエス様を死刑にさせました。暴動が起こることとは自分の統治能力がないと査定されるからです。自分の出世のために神の子を犠牲にしたのです。

群衆は革命を起こさないイエス様に失望していました。失望は怒りに変わり、それが集団心理によって暴徒化するところまでいってしまったのです。彼らはかつてはイエス様のいやしや奇跡を求めて従っていた、または好意的に思っていた人々でした。それでも自分の勝手な”救い主像”や期待に合わない、反対者になってしまったのです。

私たちがまだ完全に神様の御計画が分らないときには、失望したり悪態をつきたくなる思いにとられるかもしれません。そのときはあくまでも全能にして愛の神様に祈って聞くことです。それをしないでいると、神様との関係が健全でなくなってしまう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 28日 木曜

ルカ

23:33 「どくろ」と呼ばれている場所に来ると、そこで彼らはイエスを十字架につけた。また犯罪人たちを、一人は右に、もう一人は左に十字架につけた。

23:34 そのとき、イエスはこう言われた。「父よ、彼らをお赦しください。彼らは、自分が何をしているのかが分かっていないのです。」彼らはイエスの衣を分けるために、くじを引いた。

23:35 民衆は立って眺めていた。議員たちもあざ笑って言った。「あれは他人を救った。もし神のキリストで、選ばれた者なら、自分を救ったらよい。」

23:36 兵士たちも近くに来て、酸いぶどう酒を差し出し、

23:37 「おまえがユダヤ人の王なら、自分を救ってみろ」と言ってイエスを嘲った。

23:38 「これはユダヤ人の王」と書いた札も、イエスの頭の上に掲げてあった。

23:39 十字架にかけられていた犯罪人の一人は、イエスをののしり、「おまえはキリストではないか。自分とおれたちを救え」と言った。

23:40 すると、もう一人が彼をたしなめて言った。「おまえは神を恐れないのか。おまえも同じ刑罰を受けているではないか。」

23:41 おれたちは、自分のしたことの報いを受けているのだから当たり前だ。だがこの方は、悪いことを何もしていない。」

23:42 そして言った。「イエス様。あなたが御国に入られるときには、私を思い出してください。」

23:43 イエスは彼に言われた。「まことに、



あなたに言います。あなたは今日、わたしとともにパラダイスにいます。」

イエス様は十字架に釘打たれました。犯罪人と一緒ということは、ご自身が罪あるものとみなされたということです。私たちの罪を、まさに犯罪人として負ってくださった主イエス様に感謝しましょう。自分が犯している、または犯してしまった罪のために、このように苦しめられたのだということ覚えましょう。

犯罪人の二人は全く違った結末になりました。1人はパラダイスに迎えられ、一人は永遠の滅びに行ったのです。家族も友人もみな永遠の行き先は二つに一つであることを忘れてはなりません。真剣に救いを求めましょう。伝道のために何からできるか考えましょう。また実行しましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



29日 金曜

ルカ

23:44 さて、時はすでに十二時ごろであった。全地が暗くなり、午後三時まで続いた。

23:45 太陽は光を失っていた。すると神殿の幕が真ん中から裂けた。

23:46 イエスは大声で叫ばれた。「父よ、わたしの霊をあなたの御手にゆだねます。」こう言って、息を引き取られた。

23:47 百人隊長はこの出来事を見て、神をほめたたえ、「本当にこの方は正しい人であった」と言った。

23:48 また、この光景を見に集まっていた群衆もみな、これらの出来事を見て、悲しみのあまり胸をたたきながら帰って行った。

23:49 しかし、イエスの知人たちや、ガリラヤからイエスについて来ていた女たちはみな、離れたところに立ち、これらのことを見ていた。

23:50 さて、ここにヨセフという人がいたが、議員の一人で、善良で正しい人であった。

23:51 ユダヤ人の町アリマタヤの出身で、神の国を待ち望んでいた彼は、議員たちの計画や行動には同意していなかった。

23:52 この人がピラトのところに行って、イエスのからだの下げ渡しを願い出た。

23:53 彼はからだを降ろして亜麻布で包み、まだだれも葬られていない、岩に掘った墓に納めた。

23:54 この日は備え日で、安息日が始まるうとしていた。

23:55 イエスとともにガリラヤから来ていた女たちは、ヨセフの後について行き、墓と、イエスのからだを納められる様子を見届けた。

23:56 それから、戻って香料と香油を用意し



た。そして安息日には、戒めにしたがって休んだ。

神殿の幕は神様の聖と人間の罪とを隔てるものでしたが、その断絶がなくなったことを意味します。もちろんそれはイエス様の十字架によって、人の罪が赦され、神に受け入れられるものとなったからです。もはや私たちと神様とを隔てるものはないということです。私たちは大胆に恵の御座に近づきましょう。

イエス様を十字架につけた者がいた反面、イエス様の死を悲しみ悼んだ人もいました。百人隊長や議員というのは、立場からすればイエス様を処刑した側の人間ですが、信仰は立場ではなくその人の内面によるのです。

私たちはどうでしょうか。もしも世の中がイエス様を否定しても、あくまでも信仰を持ち続ける者でありましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



30日 土曜

ローマ



た者なのです。何があっても主の愛と解決を信じましょう。主にお任せして安心し、従いましょう。

5:6 実にキリストは、私たちがまだ弱かったころ、定められた時に、不敬虔な者たちのために死んでくださいました。

5:7 正しい人のためであっても、死ぬ人はほとんどいません。善良な人のためなら、進んで死ぬ人がいるかもしれません。

5:8 しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに対するご自分の愛を明らかにしておられます。

5:9 ですから、今、キリストの血によって義と認められた私たちが、この方によって神の怒りから救われるのは、なおいっそう確かなことです。

5:10 敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させていただいたのなら、和解させていただいた私たちが、御子のいのちによって救われるのは、なおいっそう確かなことです。

5:11 それだけではなく、私たちの主イエス・キリストによって、私たちは神を喜んでいます。キリストによって、今や、私たちは和解させていただいたのです。

私たちが「弱かったころ」、また「不敬虔な者」であったころに、イエス様は死ぬほどの愛を貫き与えてくださいました。それほど愛をいただいているのですから、私たちは今も主に愛されていないはずがありません。

「和解」とあります。主イエスに方向転換して、主の十字架の救いをいただいた私たちのために、主は味方となってくださるのです。

もちろん苦しいこともありますし、失敗もしますし、罪ゆえの愛の叱責を受けることもあります。それでも決して変わらない関係は和解させていただ

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



24:1 週の初めの日の明け方早く、彼女たちは準備しておいた香料を持って墓に来了。

24:2 見ると、石が墓からわきに転がされていた。

24:3 そこで中に入ると、主イエスのからだは見当たらなかった。

24:4 そのため途方に暮れていると、見よ、まばゆいばかりの衣を着た人が二人、近くに来た。

24:5 彼女たちは恐ろしくなって、地面に顔を伏せた。すると、その人たちはこう言った。

「あなたがたは、どうして生きている方を死人の中に捜すのですか。」

24:6 ここにはおられません。よみがえられたのです。まだガリラヤにおられたころ、主がお話しになったことを思い出さない。

24:7 人の子は必ず罪人たちの手に引き渡され、十字架につけられ、三日目によみがえると言われたでしょう。」

24:8 彼女たちはイエスのことばを思い出した。

24:9 そして墓から戻って、十一人とほかの人たち全員に、これらのことをすべて報告した。

24:10 それは、マグダラのマリア、ヨハンナ、ヤコブの母マリア、そして彼女たちとともにいた、ほかの女たちであった。彼女たちはこれらのことを使徒たちに話したが、

24:11 この話はたわごとのように思えたので、使徒たちは彼女たちを信じなかった。

24:12 しかしペテロは立ち上がり、走って墓に行った。そして、かがんでのぞき込むと、亜麻布だけが見えた。それで、この出来事に驚きながら自分のところに帰った。

した。人は死の前には希望を持つこともできないほど無力なのです。しかし主イエスは人類の初穂としてよみがえりました。

復活は事実であるから力があります。弟子たちの内面の希望という程度であるなら、誰もその希望を持つことができないからです。信じることができなくても、事実を見ることはできます。それは歴史的に記録が残されている事実です。それが復活の信仰なのです。

そしてその事実の上に、私たちの希望は成り立っています。私たちの身代わりに死んでよみがえったということは、私たちが同じようになるということだからです。

永遠のいのちの希望を持ち続けましょう。それが人に伝わるような生き方をしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

